



創業・移住支援ポータルサイト「うきはのはなし」特別編 大学生による市内事業所インタビュー 一の瀬焼 丸田窯



一の瀬焼 丸田窯
陶主
丸田 巧さん

うきは市では、創業・移住支援ポータルサイト「うきはのはなし」の中で市内創業者・事業所の紹介をしています。

昨年度に引き続き、広報うきはでも久留米大学生による取材記事を掲載します。うきは市の様々な産業の魅力をお届けします。

■トップインタビュー■

Q.一の瀬焼 丸田窯の創業の歴史と現在の業務内容について教えてください

一の瀬（朝田）焼はもともと久留米市朝妻の発祥で400年の間、日本

文化を表現し常に広い範囲にわたって続いているもので、染付の特色を活かした磁器でした。今から54年前、当時の浮羽町の町長さんに一の瀬焼の復興のためにこちらでやってくれないかという依頼を受けたのがきっかけで、うきは市に来たのが今の丸田窯です。

現在、うきは市一の瀬に窯元は6軒あり、小石原焼や小鹿田焼からの伝統を引き継いでいる窯もあるため、一の瀬焼と一言で言っても、窯元によって作り方が若干違ってきます。

うきは市にやってきた頃は陶芸ブームの最中でした。そのため、結婚式の引き出物などでも民芸品は用いられ、大変身近なものでした。近年はプラスチック商品などの普及によってだんだんと身近ではなくなったかもしれませんが、長い歴史のある一の瀬焼を守り伝えていきたいと考えています。

Q.一の瀬焼丸田窯のこだわりは何ですか

うちの陶器は釉薬（ゆうやく）の代わりに塩を使って光沢を出す「塩釉（えんゆう）」という技法を使っています。塩釉はもともとヨーロッパで使われていた技法で、日本に入ってきてからは土管に使われてい

ました。昔からやっている型付けを塩釉という技法を取り入れることでオリジナリティのある陶器を作りたいと思っています。

他の窯元よりもうちは価格が高いと言われることがあります。100円ショップでも陶器が売られるようになってきて、うちの陶器を買ってもらうのは難しいことですが、それだけ手間暇かけて品質のいいものを作ろうという思いがあります。

Q.今後挑戦したいことや、伸ばしていきたいところはどこですか

「写し」という古くからの形状や模様をそのまま陶器に写す製法もありますが、私は伝統の中から良いものを拾いながら日本の生活スタイルに合わせて新しい技術を取り入れることで他の窯元ではやっていないことをしていきたいと思っています。

今はプラスチック商品が普及していますが、反面、環境問題も大きくなっています。そのような視点からも、たくさんの方に陶器をうまく生活に取り入れていただきたいです。若い人にも陶器の良さを知ってもらうことが、伝統ある陶芸を後世につなぎ、環境問題の解決にもつながることだと考えています。

Q.学生やうきは市の方に伝えたいことはありますか

学生には自分の好きなことを職業にしてほしいと思っています。そうでなければうまくいかないと思うからです。陶芸などのような職に就こうと思うなら特にそう思いますね。また、陶芸の公募展や展示会に出しても、うきは市の人々にはなかなか知ってもらう機会が少ないので、知ってほしいなという思いはありますね。

★取材を終えて★

私は今回の取材を通して、「自分の中で本当にやり続けたい事は何か」や「やり続ける覚悟」について私自身がやってきた事を振り返る時間となりました。とても有意義な取材であり、社会人になった時には家族にプレゼントしたい作品ばかりで楽しい時間でした。（宮川）

今回企業インタビューという貴重な体験をすることができました。大手企業とは違う中小企業の経営の難しさとか、やっていて楽しいことなどをより現実味のある生の声で触れることができ、大学の講義とは一味違った学びの場となりました。（小峰）

陶芸の世界や芸術の分野の伝統を継承する難しさを知ることで、物のありがたみを実感することができました。若者の中ではプラスチック商品など当たり前になり、伝統あふれるものを忘れることなく次の世代に繋ぐことが大切だと思いました。（藤井）



久留米大学3年
宮川 純奈



久留米大学3年
小峰 稜



久留米大学3年
藤井 陸太

会社名 一の瀬焼 丸田窯
所在地 うきは市浮羽町朝田 1133-2
電話 0943-77-2749
FAX 0943-77-8484
HP marutagama.com

この記事に関する問い合わせ先
うきはブランド推進課商工振興係
TEL:0943-76-9095
取材協力：筑後信用金庫

創業・移住支援ポータルサイト

うきはのはなし

検索